

WABI・SABI・SATOYAMA

～ アートの世界から見たSATOYAMAの価値 ～

古来、縄文時代より、日本人は里山とかかわりを持ちながら生きてきました。歴史上何度か、里山の樹木は建材需要や軍事物資需要を満たすための過度の伐採による森林破壊の危機に瀕しましたが、そのたび保護運動により回復し、近代まで持続可能な利用がなされてきました。化石燃料が普及し、家庭用燃料としての薪炭需要が無くなると、放置されるようになった里山からは、人の手が加えられた自然ならではの生態系は徐々に失われ、真っ暗な森と化し害獣が侵入、食害により植生が偏り、土壌の流出や倒木による民家の損壊、あるいは、不法投棄される産業廃棄物による汚染など、新たな問題を引き起こすようになっていきます。

現代の里山に、アートの切り口から、価値を再認識しようとするのが今回の企画です。ポスト東京オリンピックを見据えて、都市に住む我々は里山とどのように係っていくのか、その価値をどのように活かしていくのか、次の時代どのように作っていくのか、是非、皆さんと一緒に考えたいと思います。

2018

7.5

Thu

18:30-20:30

講師 山本 豊津 (やまもと ほうづ)氏

全銀座会催事委員会委員 アートフェア東京シニアアドバイザー
日本現代美術商協会理事 武蔵野美術大学芸術文化学科特別講師

日本で最初の現代美術の企画画廊「東京画廊」の創始者である山本孝の長男。東京画廊代表取締役社長。

武蔵野美術大学建築学部卒業後、衆議院議員村山達雄氏の秘書を経て、1981年より東京画廊に参画、2000年より代表を務める。全銀座会催事委員会委員。アートフェア東京シニアアドバイザー。日本現代美術商協会理事。武蔵野美術大学芸術文化学科特別講師。

世界中のアートフェアへの参加や、展覧会や都市計画のコンサルティングも務める傍ら、日本の古典的表現の発掘・再発見や銀座の街づくり等、多くのプロジェクトを積極的に手がけている。その他、若手アーティストの育成や大学・セミナーなどで学生への講演等、アート活性に幅広い領域で活動している。

著書に『アートは資本主義の行方を予言する』（PHP新書）、『コレクションと資本主義「美術と蒐集」を知れば経済の核心がわかる』（角川新書）



Information

日時：2018年7月5日（木）
開場：18：15、勉強会：18：30～20：30

場所：プレイス W 東京都千代田区九段北 4-3-26 政文堂ビル 1 階

※市ヶ谷駅より徒歩約 8 分

参加費：3,000 円
(フィンガーフード付き、アルコールを含むドリンク類は当日有料にて販売)

申込：先着 30 名
ウェブサイトよりお申し込み下さい。 <https://reserva.be/placewyoyaku02/>

主催：株式会社環境ビジネスエージェンシー
お問い合わせ：プレイス W 事務局 place_w@woonerf.jp



 **woonerf**